

◎ 事務局よりおわび

昨年大会時には決定をみなかつた事務局をその後委員会の要請もあつて東洋大学でお引受けしたわけですが、性來の怠惰や不馴れやらの上に新設学部の雑事とかけもちで、研究通信の発行もすつかり延引してしまいました。有賀委員や福武委員・前事務局から叱られ乍ら、村研大会の印象もすつかりうすれ去つた今頃になつてどうやら出来上つた次第で、この点会員の皆様方には種々御迷惑をおかけした事と存じます。

村研もいよいよ七年目をむかえ、会員諸氏も大いに張切ろうとしていたかった時期だけに、それに水をさす結果になりそうな気がして申訳なく思つておりますが、幸い年報編集事務を島崎会員、田野崎会員でお引受け下さるとの申出もあり、委員会も事務局の非力を積極的に応援して下さるとの事なので大いに意をつよくしている次第です。

身辺の雑事に追われて村研の仕事に専念出来ないことは残念ですが何とか十一月の大会までは皆様の協力をそそつておきたいと存じております。会員の皆様がたの叱正と御援助をお願いたします。

次の三五号は六月下旬発行の心算りです。